

# つばめ

高知 二年 はるき



雨の日、学校からかえっていたら、つばめがうしろからきて、ぼくをおいぬいて行きました。

ひざのたかさで、下をとんで行きました。

「なんでやろうかな。」  
と言いました。

しんごうをわたっていたら、つばめが、ぼくの右からきて、ぼくのまえを行って、みちのまん中をとんで行きました。やっぱり下をとんでいました。

あきびょういんのまえでも、下をとんでいるつばめがいました。

かえっていたら、よこいのおみせのまえで、つばめがうしろからきて、おいぬきました。やっぱり下をとんでいました。

いえに入って、とをしめようとしたら、つばめがハウスのよこのほそいみちをのぼって行きました。また、下をとんでいました。

学校のと書しつで、とりのずかんをいっぱいかりました。つばめのページを見ました。でも、書いていませんでした。

学校からかえって、しゆくだいをしていたお姉ちゃんに、

「つばめが雨の日、下をとびゆうのはどうして。」

と聞きました。お姉ちゃんは、

「雨がふって、はねに水がたまるき、下におされゆうがじゃないが。」  
と言いました。

ぼくは、ふーんと思いました。

なん日かたって、学校からかえって、ひばあちゃんに、

「雨の日、つばめが下をとびゆうがは、どうして。」  
と聞きました。ひばあちゃんは、

「わからん。」

と言いました。

ほうかご先生が、「天気100のひみつ」という本を出してきました。

本をあけると、「つばめがひくくとぶと天気はわるくなるの？」と書いているページがありました。読んでみたら、「つばめのえさの虫は、天気があるとき、ひくくとびます。それは、天気をわるくするてい気あつがちかづいてくると、くう気中の水じょう気がふえるからです。」と書いていました。

ぼくは、あまりいみがわからんと思いました。

四じかん目のつづりかたのとき、しょくいんしつの教頭先生のところにに行きました。「天気100のひみつ」の本ももって行きました。

ぼくが、

「つばめが雨の日、ひくくとぶのはどうしてですか。」

と聞きました。教頭先生は、本を読みながら、

「『つばめはとんでいる虫をたべます。』ということは、生きていますか、しんでいますか。」

と聞きました。ぼくは、

「生きています。」

と言いました。教頭先生が、

「虫はしっけで羽や体がぬれておもくなる。たとえでいえば、あけたてののりは、パリパリやけど、おいておけば、しっけで、ふにゃふにゃになるでしょ。それとおんなじことです。」

と言いました。ぼくは、ふーんと思いました。

教頭先生が、

「つばめは腫れの日、高くとぶけど、高い場しよに虫はおるがやろうかねえ。」

と言いました。ぼくは、そういえばそうやなあと思いました。

ぼくは、

「ありがとうございます。しつれいしました。」

と言って教しつにかえりました。

つばめは、虫をおいかけるために、雨の日は下をとぶとわかりました。

(指導 山本真紀子)